

横浜・青葉区民音楽祭で演奏

横浜アコーディオン愛好会

横浜アコーディオン愛好会は、1月16日、横浜の青葉区民音楽祭で演奏しました。その様子を報告します。

コロナ禍で開催が危ぶまれましたが、関係者の熱意と周囲の協力で何とか開催することができました。例年行っていた青葉公会堂が工事で休館となったことから代わりに「青葉区民文化センター・フィリアホール」での開催となりました。

このフィリアホールはクラシックの本格的コンサートホールでウイーン楽友協会のニューイヤーコンサートで有名なホールのミニチュア版、本格的な音響特性を備えており音に包まれたように感じられる臨場感がある素晴らしいホールです。我々の出番は3番目で13時35分からの30分、10名が舞台に上がりました。

横アコの特徴は、指揮者なしでの合奏です。まずは1956年に公開された同名のハリウッド映画の主題歌「80日間世界一周」の演奏で開幕。横アコでは、音楽で世界をめぐるたいの思いから勝手にオープニング曲のひとつとして活用しています。

最初の訪問場所は、オーストリア。壮大なアルプスの情景を思いながら、風の音も小鳥のさえずりも聞こえる「サウンドオブミュージック」。

次は、アルプスを越え、フランスへ。ヨーロッパといえばシャンソンが思い出

されますが、壮大な海への憧憬を歌ったという、シャルル・トレネ作曲の「ラ・メール」。

次は、新年ということと会場がウイーン楽友協会ホールに似ていることでウイーンフィルハーモニー管弦楽団のニューイヤーコンサートでお馴染みの「ラデツキー行進曲」を演奏、手拍子も本場並みに貰えてみんな大満足。

そして日本に戻り、前指導者石居庸介先生の名編曲、日本各地の民謡をつづった「日本民謡メドレー」を演奏し、最後に「ふるさと」で幕を閉じました。

横アコは、コロナ禍前は、主に各種福祉施設を始め、東北・石巻にボランティア活動の一環として出向き、演奏してきました。今はコロナの影響で移動が出来ませんが、震災だけでなく日本各地でさまざまな災害が起きていますが、「私たちはいつまでも被災地のことを忘れません。遠くから応援しています」との思いをこめて締めはこの歌を歌い、演奏しています。

この青葉区民音楽祭には、「横アコ」の他に「インドネシア竹製民族楽器演奏」、「オカリナ演奏」「マリンバ演奏」「ハーモニカ演奏」「リコーダーアンサンブル」「木管—金管楽器や弦楽器編成の演奏」「吹奏楽団演奏」の計8団体が12時から17時30分まで、30分ずつ演奏しました。最寄り駅から1、2分と近いこともあり、今まで以上に聴きにきてくだ

さった方が多く、またその後のコロナの感染もなかったとの情報もあり区民音楽祭は成功裏に終わりました。

あとがき

開催終了後に、ホールで録音した演奏を反省材料としてみんなで聴きましたが、ホールの音響が素晴らしく、アコーディオンの音が良く響いていて感動しました。



写真：青葉区民文化センター・フィリアホール
(ホームページより転写)



昨年、12月駅前商店街のXmasイルミネーション点灯式で演奏したときの様子
(本紙2ページ、□横浜アコ愛好会コメント参照) 写真：横浜アコ・愛好会提供